



# 重要文化財五十嵐家住宅 災害復旧事業

## 令和4年(2022) 被災の概要

### 災害発生時の気象状況

令和4年(2022)8月3日の朝から前線が日本海から北陸地方に緩やかに南下。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。上空には複数の線状降水帯が発生し停滞、8月4日の朝までは、雷を伴った激しい雨が阿賀町豊実地域を中心に降り続いた。同地域内にある上平観測所では、記録的短時間大雨となる1時間雨量118mmを観測。同日午前10時には、24時間雨量537mmを観測し、記録的な大雨となった。五十嵐家住宅への唯一のアクセス道路である町道実川線も複数個所の法面崩壊や路肩決壊により寸断された。



### 被災状況

豪雨による被害は、主屋のみ確認され、土石流の影響範囲外に建つ上手蔵に被害はなかった。下手蔵の外壁には主屋の流出した部材や倒木の接触が確認されたが、建物そのものへの被害はなかった。主屋の被害状況については、座敷部の上手三間半分が、土砂により三十メートルほど押し流され、下手蔵北側に散乱していた。イリノザシキ、デトノザシキは跡形もない状態、チャノマは南西隅柱が流出し、上屋梁は辛うじて片持ちで位置を保っていた。チャノマ内部の壁は柱ごとなぎ倒され、牛梁は西端部で支えを失っていた。床板も捲り上がり、建具や畳等が内部に散在していた。

### 被災現場の状況 (動画)



2022年8月16日動画  
(土石流発生状況)



2022年9月9日動画  
(主屋の被災状況)



2022年9月9日動画  
(部材の流出状況)



チャノマ 被災前



チャノマ 被災後



茅葺の主屋が写る古写真



主屋 被災後



主屋の接客座敷—イリノザシキ 被災前



チャノマからイリノザシキ方向を望む 被災後



古材に記された古い番付 「る五上こや」と読める

